

国本雄資がスタートダッシュで魅せるもトラブルで戦列を離れる

2021 全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦レポート

| | | | |
|-------|---|------------------|-------------------|
| 開催日程 | 2021年4月24日(土)/25日(日) | 開催場所 | 鈴鹿サーキット(5.807km) |
| 大会名称 | 2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦(30周 / 参加台数:19台) | | |
| 天候/気温 | 4月24日(土): うす曇り / 17℃ | 25日(日): 晴れ / 23℃ | |
| 観客動員数 | 4月24日(土): 7,000人 | 25日(日): 9,500人 | 計 16,500人 (主催者発表) |



開幕戦からわずか3週間のインターバルを挟み、全日本スーパーフォーミュラ選手権の第2戦が開催された。舞台は鈴鹿サーキット。例年、2輪の国内最高峰クラスである全日本ロードレース選手権との併催でにぎわうこの大会も、今シーズンは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、様々な制限がかけられることに。そんな中でも予選日には7,000人、決勝日は10,000人近いモータースポーツファンがサーキットに集まった。

KCMGはチーム一丸で2戦連続のポイント獲得を目指し、レギュラードライバーの国本、そして世界耐久選手権(WEC)に参戦するためスーパーフォーミュラ欠場となった小林可夢偉の代役である小高一斗とともに今大会に挑んだ。

【予選】

天気:うす曇り / 気温:17°C / 路面コンディション:ドライ

| | |
|----------|--|
| #7 小高一斗 | Q1B 組: 17 位 / 1' 38.429 |
| #18 国本雄資 | Q1A 組: 4 位 / 1' 38.037 Q2: 13 位 / 1' 37.736 |

スーパーフォーミュラの公式スケジュールが開始したのは24日(土)の午前中。午後の予選を前に1時間30分のフリー走行が設けられた。直前に2輪の公式予選が行われていた影響で路面状況が普段と異なり、走り出しではあまりいい感触を得られずにマシンの調整を繰り返していく2台。国本はセッション中盤でニュータイヤを装着し、それまでの自己ベストタイムを1秒縮めて見せると、残り時間が5分を指すところでもう1セットのニュータイヤでコースインしアタックシミュレーションに入る。1分39秒397は全体の13番手タイムとあまり満足のいかないタイムとなったが、ここでのフィーリングをもとにチームは予選に向けたセットアップを進めていった。一方の小高は、マシンのシートを作り替えて今大会に臨んでいた。序盤こそ体に馴染まずわずかに違和感を訴えていたが、マシンのセッティング調整を進めて走行を続けるうちに調子を取り戻していく。終盤のアタックシミュレーションでは1分40秒266をマークして予選に向かった。

午後3時10分に公式予選がスタート。今回は国本がQ1A組に出走した。10分間の予選時間の中で、まずはユーズドタイヤを装着してコースチェックランに向かうと、ピットに戻りニュータイヤへと交換。アウトラップで入念にタイヤを温めアタックに入っていた。セクター1から午前中の自己ベストタイムを削ってみせた国本は、1分38秒037をマーク。コースコンディションは走れば走るほど向上するため、チェッカーを受けるギリギリのタイミングでアタックに入れるよう、絶妙なタイミングでコースインしたことも成功し、4番手でQ2進出を決定した。

Q1B組に出走した小高も国本同様にセッション開始と同時にユーズドタイヤでコースイン。チェックラップの後にピットに戻ると、残り時間が5分を指すところでニュータイヤを装着しピットを離れていった。国本はアウトラップ後すぐにタイムアタックに入ったが、小高は1周のウォームアップラップを挟んでアタック。残り時間が33秒となったところでアタックに入ると、渾身の走りで1分38秒429をマークした。午前中の自己ベストタイムと比べ2秒近くタイムを縮めたものの、結果は9番手。Q2進出には0.3秒届かず、ここで予選を終えることとなり、総合結果は17番手だった。

Q2は7分間とセッション時間が短くなるが、国本はQ1同様にチェックラップを行うと、タイヤを履き替えて再度コースイン後にすぐアタック。1分37秒736を記録した。Q1ならば上位に着けられるこのタイムも、Q2では13番手にとどまり、ここで国本も予選終了となった。

フリー走行と比べるとマシンの感触も調子を上げてきた2台ただだけに悔しい予選結果となったが、決勝レースでの挽回を誓ってチームは準備を進めていった。

【決勝】

天気:晴れ / 気温:23℃ / 路面コンディション:ドライ

#7 小高一斗: 16位 / #18 国本雄資: リタイア

予選日の上空は薄い雲で覆われていたが、決勝日は強い風で雲が押し流されたかのように、真っ青な空が広がった。気温 23℃、路面温度 31℃というコンディションで 30 週の決勝レースがスタートした。スタートに定評のある国本は今回も素晴らしい蹴り出しで前のマシンをとらえると、1 コーナーから 2 コーナーでのライバルとの競り合いも制してオープニングラップで 10 番手にポジションアップ。小高は決勝前から入念にスタート練習を繰り返していたが、ホイールスピンを喫してしまいポジションを落としてしまった。

スタートで一気にポイント圏内まで上がった国本は、前を走る#1 山本尚貴選手に食らいつきながら、後方から追い上げてくる#51 松下信治選手、#3 山下健太選手、#64 大湯都史樹選手らを抑え込み周回を進めていった。背後の 3 台は順位を入れ替えながら国本に迫り、8 周目のバックストレートでは#3 山下選手がオーバーテイクシステム(OTS)に手をかけ急接近。シケインではアウト側から並びかけてくるが、国本は冷静にラインを押さえて#3 山下選手の追撃を阻止。ホームストレートではテールトゥノーズのところまで迫られたが、ここで OTS を利用してポジションを守り切った。なおも背後に#3 山下選手と、バトルの間に差を縮めてきた#64 大湯選手らが詰め寄ってくる中、9 周目にトップを走行していた#5 福住仁嶺選手がタイヤトラブルに見舞われバックストレートでスローダウン。これで国本は 9 番手に、小高は 17 番手に 1 つずつポジションアップした。

10 周目にタイヤ交換のピットウィンドウが開いたことから 8 台がピットイン。国本は 11 周を終えるところでピットに向かうと、チームは迅速な作業でタイヤ交換を済ませ、見た目上では 12 番手でコースに復帰した。ただしピット作業を済ませたマシンの中では 4 番手につけ、後からピット作業を行うライバルたちを先行するべくアウトラップからプッシュしていった。

その後、2 台がピット作業に向かい暫定 10 番手にポジションが上がった 15 周目。突然国本からタイヤの振動を訴える無線が入る。チームがタイヤ交換の指示を出したその直後、130R でタイヤが突然バーストし、コントロールを失った国本のマシンはタイヤバリアにヒット。横転するほどの大きなクラッシュとなってしまった。国本には大きなけがはなく、映像モニターでもマシンから自力で脱出する姿が映し出されたが、これで国本は戦列を離れることになる。2 戦連続のポイント獲得を目の前に、残念ながらリタイアとなった。

国本のクラッシュにより、レースはセーフティカー(SC)が導入され、20 周目に再開。12 周目に既にタイヤ交換を済ませており、15 番手でリスタートを迎えた小高は 24 周目に#14 大嶋和也選手にかわされ後退。そのまま 16 位でフィニッシュした。

大きなクラッシュに見舞われた今大会だが、ドライバーが無事だったのは幸い。また、タイヤ交換のスピードも含め、チーム力の確実な向上も見られたレースだった。トラブルの原因追及と合わせてパフォーマンスの向上も目指し、次戦オートポリス大会へ挑む。

【ドライバーコメント】

#7 小高一斗

今大会は走り出しからあまり調子が良くなかったのですが、予選に向けてクルマのセットアップを進めた結果、今までで一番タイヤのグリップ感を感じることができました。残念ながらセクター1での遅れが大きくQ1を突破できませんでしたが、開幕前のテストからここまでで一番良い感触を得ることができました。決勝でもフィーリングは良く、実際のペースも悪くありませんでした。オーバーテイクシステムの使い方がうまくいかにポジションを上げられず、結果的にはポイント獲得には届きませんでしたが、今回良かったことを次に活かしていきたいと思っています。

#18 国本雄資

予選日は、午前中のフィーリングは良くなかったのですが上手くアジャストでき、予選ではある程度のパフォーマンスを出すことができました。グリッドは13番手となり、スタートでポジションを上げてポイント圏内で戦っていたところ右リヤタイヤが壊れてしまい、クラッシュでレースを終えることになってしまいました。タイヤ交換のタイミングも良かったですし、アウトラップも速くていい展開に持っていけていたのでとても残念です。今回良かった部分もいくつかあったので、これをしっかりと持ち帰り結果につなげられるよう準備をして次戦に臨みたいと思います。

【監督コメント】

松田次生監督

まずは、大きなクラッシュがあった中で国本に怪我がなく安心しました。同じことが二度と起こらないように、原因を探っているところです。ドライバーは非常に頑張ってくれていましたし、チームとしても良いレベルでタイヤ交換などの作業ができました。ポイント圏内を走っていたので残念ではありますが、次戦のオートポリスは鈴鹿に似た部分もあるので、チーム一丸でまたいいクルマを仕上げていきたいと考えています。小高に関してはまだまだ勉強中な部分もありますが、少しずつ成長してくれています。

今大会は走りはじめのセットアップで苦労しましたが、予選までにきちんといいクルマになりましたし、今回見つかった方向性をベースにオートポリス戦へつなげていきたいと考えています。

まだまだ求めている結果には届いていませんが、ここまで2戦で見つかった良い部分を第3戦では結果に結びつけられるよう頑張っていきますので、引き続き応援よろしくお願いいたします。

